

2011年9月15日

私のFD体験

—FD推進ワークショップ（新任専任教員向け）に参加して—

教育開発支援機構

FD推進センター長 川上 忠重

社団法人日本私立大学連盟主催の「平成23年度FD推進ワークショップ（新任専任教員向け）2011年8月8日、9日開催」に同連盟のFD推進ワークショップ運営委員として参加する機会をいただいた。ここでのFD体験について紹介したいと思う。

FD推進ワークショップは、専任教職員向けと新任専任教員向けの2つがあり、今年度は既に、6月23日(土)に専任教職員向けとして「見えないFDから見えるFDへ—職能開発の内部質保証システムの構築を目指して—」が開催されている。

今回のFD推進ワークショップの目的は、大学教員の4つの職能（教育、研究、社会貢献、管理運営）を認識した上で、マイクロ・レベルのFD（担当科目）の実践（模擬授業）を通して、FDの目的を正確に理解し、教員の使命を適切に説明できるようになることである。初日は全体説明（大学教員の職能開発とは、FDとは）から始まり、パネル・ディスカッションでは、昨年度の参加経験に基づくFDへの取り組み例（参加後に変わったこと、変えたこと）や具体的な問題意識等を紹介いただいた後（3名）、参加者との意見交換が行われた。多くの参加者が特色ある各大学の取り組みについて情報共有することにより、参加者自身の職能に関する「振り返り」の機会となった。つぎに7名程度のグループに分かれて、討議が行われた。委員は、ファシリテーション役である。自分の授業で気になっていること等を各自紹介し合い、現在解決したい問題や課題について意見交換が行われた。また、翌日の模擬授業に向けた授業案（学習指導案）を参加者が各自作成、提出が行われた。ここでの授業案は、レジュメや配布資料ではなく、「導入」「展開」「まとめ」の三段階に分けて授業の流れを明示し時間配分を決め、段階ごとに「教員の活動（板書計画を含む）」、「学生の活動」、「留意点」等を記載するものである。私自身も、講義ノートをあらかじめ準備し、板書計画、パワーポイント参照や演習のタイミング等の大まかなスケジュールは決めて授業に臨んではいるが、段階ごとの目的をできるだけ明確にして、「到達目標」の実現を常に自覚する重要性をファシリテーター側からの参加からあらためて認識できた。

二日目は、授業案に基づいた授業を15分各自行い、「模擬授業」の内容についてグループ全体で建設的な討議を行った後、各グループのFD推進ワークショップからの気づきを発表し、活発な意見交換が行われた。

既に多くの各高等教育機関において様々な教員相互評価（授業参観）や新任教員研修プログラムも実施されているが、大学を超えた情報交換も教育の質向上に向けた、新しい発見が数多くあった。これらの結果を今後の本学での授業改善に役立てて行きたい。